

日本学術会議第二部役員会（第24期・第11回） 議事要旨

1. 日 時 令和元年8月29日（木） 12：30～13：30

2. 場 所 日本学術会議5階 5－B会議室

3. 出席者 石川部長、平井副部長、武田幹事

4. 議 題

1) 前回議事要旨確認

特に意見はなく承認された。

2) 「日本の展望 2020」について（役員会資料1）

「日本の展望 2020」の二部に関連する項目と執筆候補者について議論した（役員会資料2）。できるだけ会員、連携会員を中心として、該当者がいない場合は外部の専門家に依頼する方針。

・日本の学術の展望（最終章）、最先端の基礎研究について

石川部長より、本章担当の佐藤先生、野尻先生と石川部長の話し合いの結果、第1部～第3部から各部3トピックス（1トピックス1000字）の記事を掲載して、学術の魅力を訴え若い人に学術に進んで欲しいというメッセージにすることが決まったと報告があった。

第二部関係のトピック候補を以下の通り議論した。

○神経科学

記憶学習メカニズムの理解と応用（岡部繁男会員）、体内時計と睡眠のメカニズムの理解と応用（深田吉孝会員）および東京大学 WPI「ニューロインテリジェンス国際研究機構（IRCIN）」（AIと神経発達）を武田が担当してまとめる

○日本発・世界標準のモデル生物

遺伝学的モデル生物としてのゼニゴケ

執筆者として河内孝之 京都大学大学院生命科学研究科に依頼する。

○3つ目のトピックは今後検討する。

例、大隅良典先生など

・「5. 医療の未来社会」について。

5-1_1)人口統計については、全体に関わることから、「日本の展望 2020」の中で配置を考える。

5-1_2)生殖補助医療については、

執筆者として石原 理（埼玉医科大学医学部産科婦人科）先生が上がっているが、意見の多様性を含めることも念頭に今後検討する。

この他、部長提案（役員会資料2）に従って、執筆候補者について議論した。今後も引き続き検討する。

3) 日本医学会からの申し入れに対する対応について（非公開資料1－3）

令和元年7月8日に、日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物科学分科会が公表した報告「高等学校の生物教育における重要用語の選定について（改訂）」について、日本医学会連合より令和1年7月23日付けで意見が寄せられた。例えば、遺伝学分野の優性、劣性が顕性、潜性など、医学分野の用語使用に影響を及ぼしかねない内容が報告に含まれており、総合的な検討が今後必要とする旨の意見であった。

申し入れは、日本学術会議会長、副会長宛であったことから、会長、副会長名で出す回答案を検討した。回答案には、第二部が引き続き日本医学会連合と情報共有などの連携を進めることを記載することとした。

4) 第25期会員・連携会員の選考方法について。

規定に従って進めることを確認した。

5) JST 研究開発戦略センター（CRDS）との連携について。

CRDS 事務局からの申し出を受けて、ライフサイエンス・臨床医学系分野の上席フェロー（谷口 維紹先生、永井 良三先生）と第二部との意見交換の場を設けることとした。調整は高橋雅之参事官を通して行う。

6) 財務委員会報告

第二部では、当面、委員会・分科会開催数を原則年度内1回を維持することとした。